



# JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第6号 (1999年3月15日 発行)

## 「1000人のチェロ・コンサート」



1

去る1998年11月29日に行われた「1000人のチェロ・コンサート」は、すでに新聞報道や、テレビ放映でその盛況ぶりをみなさんよくご存じだと思います。このコンサートについて、このコンサートの仕掛け人であり、JCS会員の松本巧さんに、事業報告をお願いいたしました。

日本チェロ協会(以下貴会)が本コンサートにどの団体よりも先駆けて後援の承諾をして下さり本当にありがとうございます。感謝申し上げます。お陰で参加者やそれの方を後押ししてくださった先生方には神戸の一介の串揚げ屋がやるイベントでありながら安心して受け入れていただきましたことが出来ました。まず始めにその御礼をこの紙面をお借りして御礼申し上げたいと存じます。

思えば1996年の秋にカザルスホールの児玉様に本コンサートの計画を打ち明け、協力のお願いをしたのが国内においての計画実施のスタートでした。ここでは、他のどの新聞、雑誌等にも申し述べていない、日本チェロ協会様への「書き下ろし」にて本コンサートの経緯

と所感を述べさせていただきたいと存じます。

### ♪人とのご縁

1993年にボンにあるドイツ政府迎賓館 "Petersberg" にてトリオコンサートに出演し、その後のパーティーで当時85歳だったスザンナと出会ったのがすべての始まりでした。彼女の義理の息子は Mr.Rudolf Weinsheimer といい、当時はまだ現役のベルリンフィルハーモニーのチェリストでした。スザンナとのご縁でW氏が1996年7月に神戸での12人のチェリスト達とコンサートをした後、私が毎晩揚げ場に立っていました串乃家/神戸本店に他のメンバーを引き連れててくれました。私が揚げた串

を一通り食べていただき皆がホテルに帰っても彼一人が店に残り、ひとしきりお互いの積年の思いに握手をし合ったのでした。そこで彼が1992年のボツダムでの341人のチェリストによる大演奏会の写真を見せ、「ベルリンだけでさえこれだけ集まつたのだから日本全国に声を掛ければ1,000人いや2,000人のチェリストでのコンサートができる。是非力になってほしい」と申し出たのでした。現在もそうなのですが、当時は地震後1年半経っていましたが経済規模が大幅に落ち込み、人口も激減しており、何とか神戸の地に人が戻ってもらいたい、被災地の現状を知ってもらいたいとの思いが強くありました。私は迷わず「神戸でするのだったら力になろう」

と応えたのでした。最初は神戸だったら500人位しか集まらないのではとの懸念がありました、最後には私も私の趣旨に賛同し、納得してくれました。

### ♪立ち上がり

W氏は同年の秋にもアバドとともに彼にとっては最後のベルリンフィルの演奏旅行で日本にやってきました。児玉様にお話したのもこの頃でした。W氏は高円宮殿下に同じ時期に個人的に名誉総裁就任のお願いもしていました。しかし、神戸の串揚げ屋が主催しても殿下に名誉総裁に就任していただくのは無理な話。そこで名前だけでも貸していただける相応の会社、団体の交渉が始まりました。そうこうしているうちにあっという間に約1年が経過していました。

1997年12月の下旬になって初めて讀賣という具体的な名前があがってきたのでした。結果、1998年1月に実行委員会が立ちあがって2月に殿下に正式にお願いした次第でした。

2

### ♪募集開始

堤先生にお願いして全米チェロ協会にも案内とドイツでのカセットテープを送りました。

チェロ協会正会員の主だった先生方にも個別に出演のお願いと呼びかけ人登録のお願いもしました。3月下旬に全国のアマチュア団体約700余りにDMで募集要項を送りました。

さあー受付開始の4月第一週にはきっと100~200人の応募が殺到するのではと思いきや、5月中旬になってようやく200人に届いたと言う具合でした。もしかすると6年前のポツダムをも下回るのではと・・・。不安な気持ちがよぎりました。

### ♪対策

6年前のポツダムの演奏を聞いていただけばきっとチェリストなら参加したくなるに違いない。と確信し、すぐにダビング機器を揃え申込者は無論、資料請求者にもテープを送ったのでした。ちなみにダビングした数は約2500本でした。

もう一つ特筆すべき対策があります。5月の時点で参加申し込みでいただいた全国の方々の中から各県単位で「分奏」リーダーをお願いしました。6月から全国15箇所で「分奏」が始まりました。参加者を大勢集めないといけないのに公式練習には最低4回の出席義務を課したのは全く心苦しい限りでした。しかしながら「分奏」の実施によって公式練習のメイクアップだけにとどまらない効果が現れたのでした。それまでほとんどチェロアンサンブルの経験の無かった方々が複数チェリストによる合奏に大きな喜びと感動を覚えるようになったのでした。各地区での練習そのものが彼らには心から自ら進んで新しいものとなっていきました。それが口コミで広がっていき、最終的に1,100名に近い参加申込となりました。

申し添えますが、5月下旬に才能教育研究会のチェロ科の先生方が浜松にて全国大会をなさいました。その席にお邪魔いたし、同会あげての本コンサートへのご支援を決定していただきました。同会だけで卒業者、現役の子供達を加え合計で200名に迫る参加者となりました。本コンサートへの参加者数の数読みにどれだけ貢献していただいたことか。

本当に有難く、感謝しております。

### ♪資金

参加者集めに腐心したばかりに資金集めが思うようにはいきませんでした。助成金を含め2000万円ほどは外部資金に頼っていました。絶対的な人材不足に加え、参加者集めを最優先で進めていましたので絶対的時間がこと資金集めについて深刻でした。時間がなかった典型としましては、結局神戸の大企業御三家(川崎重工、川崎製鉄、神戸製鋼)にすら正式な協賛のお願いにお邪魔できませんでした。僅かなツテを頼ってのポイントでお願いに回りました。全部で50社近くに上ったと思います。それぞれにビデオと企画書、写真そして協賛依頼書をお届けしてアポイントをいただいた上での訪問となります。前述の参加者集めに必死になっている時期と重なったのです。時間的、物理的苦痛はなんら意に介しませんでした

が、未曾有の平成不況に全国の法人がメセナには冷たくなっていました。

多分、戦後50年間の中で企業協賛をお願いするタイミングとしては最も悪い時期だったと思います。個人的に最悪は覚悟していましたが、以前からこういったイベントは絶対に赤字にしてはいけないと想いましたので何としても集める必要がありました。6月の参加者への文書の中に「協賛金紹介のお願い」を入れましたところ、2、3の方からご紹介をいただきました。また事務局の資金難を知った栃木県佐野市の方々は地元スーパーでチェロコンサートをしながら二度にわたってバザールをしてくださいました。

バザーの収益ということで10万か20万円と思っていましたら何と100万円だったのです。さらにバザーを主催した参加者のご主人様からも個人としての寄付金を100万円いただきました。このようなことで参加者の関連だけで500万円前後の資金が調達でき、結局目標とした2000万円はなんとか調達できたのでした。

### ♪練習

参加者にはプロは2回、アマは4回の公式練習への出席を求めました。6年前のポツダムではベルリンフィルのメンバーが中心となって計画、練習を進めた為に20%以上がプロのチェリストで占められました。しかしながら本コンサートはアマの私が声を掛けた為にプロの方は5%にも満たない状況でした。アマが多いからといってポツダムに負けたくなかったし、数集めだけでなく音楽的、芸術的にも十分に満足できるものに仕上げたかったのです。それで、ポツダムでは3回だった練習を最低4回出席としたのでした。神戸7回、東京4回、佐賀、福岡、広島、名古屋、栃木、札幌各1回の合計17回の公式練習をしました。そしてさらに前述の全国15箇所の分奏がそれに加わります。少ないところで4回、多いところで10回、公式以外に練習していただいたわけです。全員が先に届いたカセットテープであらかじめ練習してくれていました。ですから、7月19、20日の神戸、東京でのはじめての公式練習にしていきなり参加者自身が驚く

ほどの響きの良い音が鳴りました。その響きは最初は少し太めの帶状でしたが回を重ねるごとに帶の幅が狭まってくるのが明らかにわかりました。10月の時点では音楽的にもかなりなレベルまで参りました。

### ♪本番

はじめから悩んだのが大人数による時間差、音のずれについてでした。

指揮者から一番遠い人まで約40m、最長半径約75mが何をもたらすか。もし、全員が指揮者のインサツにぴったりと合わせて弾いても、一番前と一番後ろでは0.125秒の時間差が生まれます。これは120/分のテンポで言えば16分音符一つ分ずれることと同じなのです。おわかりいただけたと思います。全員がピタッと完全に合わせても観客席にはずれて届くのです。糸状の音でのアンサンブルは絶対不可能なのです。始めから帶状の音ありきだったのです。そこでその帶をいかに細いものにしていくかが、実はこれが前述の練習の最大の目的だったのです。当日のゲネプロになって始めてモニターを入れ、後ろのほうの方々にそのパートの前の音や、正面パートの音を届けたのでした。そのような結果、最終の本番はCDでもおわかりのとおり、6年前のボツダムの演奏を屋内と言う好条件を考慮しても比較にならないほど素晴らしいものとなりました。このことは6年前も今回も一緒に演奏した元ベルリンフィルのチェリスト達5名全員が認めるところでもあります。各地の分奏を基礎に17回にわたる公式練習の成果のお陰と思っております。

### ♪高円宮殿下

宮様の本コンサートにおけるご挨拶には出演者も聴衆もすべての人々が驚きと尊敬を持ちました。名誉総裁へのご就任は前述のとおりですが、宮様が積極的に関わっておられたのはどなたにも意外だったのです。昨年2月の参加者募集の前に宮様より日本アマチュアオーケストラ協会や才能教育研究会をご紹介いただいたのでした。また、5月にお邪魔した折に当日の進行のお話の中で熊倉氏にご登場願ったのも宮様

のご意見がそのヒントでした。最後まで本プログラム全部にご出演の望みをお持ちでしたが、10月あたりもご公務にお忙しく結局アンコールのみのご出演となりました。しかし、御三方の女王殿下もご一緒いただいたのは本当に微笑ましく、有難い幸せでした。宮様がただ単にお飾りの名誉総裁でなく、半ば実行委員として本コンサートに関わっていただけたのが一つには本コンサートが成功した大きな要因がありました。宮様には心より感謝、御礼申し上げます。

### ♪ドイツ人参加者

今回は海外からは6カ国75名のご参加をいただきました。特筆すべきはその中の65名がドイツ人でした。6年前のボツダム参加者がその殆どだったので。内訳は元ベルリンフィルのBorwitzky, Finke, Steiner, Kapler, Weinsheimer, ミュンヘンフィル現役のRuge, Haack、ベルリン在住のプロ5名、他アマ53名でした。

チェリスト以外に同伴者も13名を数えました。ドイツ側で彼らをまとめてくれたのはW氏でした。受け入れについては事務局ですべて自前でやりました。当初五泊六日の予定が航空会社との糾余曲折の結果七泊八日となり彼らにとってはまたとない日本旅行となりました。ポートビアホテルにはドイツ語のボランティアスタッフを常時2~5名待機していただき、練習日以外の彼らの要望にはこと細やかに対応させていただきました。コンサートの出来も含めて彼らはほぼ全員が大満足だったようです。約半数の方からお礼状や写真などをいただきました。

### ♪その後の盛り上がり

事務局に届いた礼状は演奏者に限らず聴衆の方々やドイツからも含め実に400通にのぼりました。演奏の間中、泣いておられた方々も少なからずおられました。演奏暦40数年の方も何百回と出演したり、聴いたりしたコンサートのどれよりも素晴らしい心の底から感動し、音楽に余り縁のない方も言い尽くせぬ感動を覚えたのでした。

感動、感動の山に囲まれた礼状は私

の2年間の苦労をすべて帳消しにしても余りある大いなる冥利を私に届けてくれました。

感動の渦は年が明けても冷めやらず、1月10日/東京120名、11日/札幌15名、15日/栃木30名、17日/神戸、佐賀80名、23日/名古屋30名、2月7日/ベルリン60名といった「1000人のチェロ同窓会」が全国各地、ドイツでも参加者自身の呼びかけで行われたのでした。さらに九州、広島でも3月に予定されています。

今まで経験のないチェロの大アンサンブルの成功にそれに参加した方々は一様に過去経験のない感動と体験をされ、今まで近くにいながら横につながったことのない「チェリストの輪」に一人の人間としての素直な喜びを感じているのです。

### ♪結びに

宮様もこのような現象には大変喜んでおられます。政治、経済、主義、主張等にとらわれない自由なそして今後へ繋がるネットワークを模索しています。折角出来た全国、いやドイツも含めた海を越えたチェリストの輪をこのまま無くしてしまうのは忍びない。こういった考え方の方々が非常に多いのです。

「音楽家であるより以前に一人の人間としてありたい」というカザルスの有名な言葉にある人間性の回復、チェロをとおして現代の中で自分達の人間としての生の喜びを感じながら、人の社会の素晴らしいしさの共有。

チェロの世界でこれだけ多くのチェリストが感動を共通に持つというのは初めてのことです。その感動が時間を経ても磨り減ることなく持続しているのです。

何とかこのネットワークを良い方向に導いていく方法に皆様方のご意見をいただければ大変有難く存じます。Fax. No078-928-9419にいただければ幸いです。

長文を最後までお読みください、ありがとうございました。

1999.02.28

1000人のチェロ・コンサート実行委員会

事務局長 松本 巧

# ルイス・クラレット マスタークラス 報告

入内島 健 (R-052)

二月二十六日のルイス・クラレットさんの公開マスタークラスを聴かせて頂きました。アマチュアにも役に立つ、有益なレッスンでした。

クラレットさんはマスタークラスをスペイン語かフランス語でやられるのかと緊張して行ったのですが、英語(しかもとても聞きやすい)だったのでほっとしました。通訳の方も、クラレットさんの意図するところを伝えられるよう一所懸命やって下さっていて嬉しかったのですが、やはり先生の言葉が直接わかれれば身に付くものも相当に多い気がします。

左手の指を一本ずつ自由に使って(同時に押えず)アーティキュレーションするやり方など、グリーンハウスさんがクラレットさんのいらっしゃる音楽院に客員で教えに来られたときに、生徒に混ざって聴いていて身につけた、ということを言われていました。

去年、同じくヴォーリズホールでグリーンハウスさんのマスタークラスを聴かせて頂いたときは、重点が音楽表現の方にあって、チェロのテクニックのことは比較的少かったように思います。

もちろん、このときはこのときで得るところがとても多かったのですが、今回クラレットさんは、チェロのテクニックのことでもいろいろ指導されていたので、自分で試してみようと思うところがたくさんありました。それぞれ、クラレットさんが実演して下さるのを見て生きた音を聴けたのは有益でしたし、指示を実践して受講者の音が変るのが印象的でした。

もちろん音楽表現のことでもいろいろ指示されていたのですが、曲の具体的な部分を指定しないと説明が難しいので、テクニックに関する事をいくつか書いてみます。

1. 左の指を一本ずつ使ってアーティキュレーションをする。
2. 左手は(一本の)指をしっかりと押えて、背中から引くように押

える。

3. ハイポジションのヴィブラートでは、押える指と親指の二本を指板に置いて、楽に動ける態勢を作る。
4. 椅子は低くして深く腰かける。
5. 伸び上がらない(樂に上体を落とした)姿勢で弾く。

1. 関しては、アーティキュレーションという言葉を使うより、分離した音を出すと言った方がよいのかも知れません。クラレットさんがさらっと弾いて下さった鈴の転がるような音を是非につけたいものだと思いました。

リサイタルや普通のコンサートより長い時間だったはずですが、あつという間の三時間でした。チェロ協会ができて以来、公開マスタークラスを聴く機会が増えて、いつも楽しみにしております。これからもよろしくお願い致します。

## ルイス・クラレット マスタークラス

日時：1999年2月26日(金) 18:00～

場所：ヴォーリズホール(お茶の水スクエアA館3F)

受講者：加藤陽子(桐朋学園大学2年、学生会員)／ラロ：チェロ協奏曲

第1楽章

友納真緒(桐朋学園大学カレッジディプロマコース、学生会員)／

チャイコフスキー：ロココの主題による変奏曲

水野奈美(東京芸術大学音楽学部3年)／フランク：チェロソナタ

第1、3楽章

## 第4回チェロサロンのお知らせ

去る1月23日(土)倉田澄子さん主宰で行われた第3回チェロサロンには、20人を越える方々が参加しました(手狭なりハーサル室でちょっと狭い思いをさせてしまってすみません)。チェロ合奏や倉田さんのワンポイントアドバイス、最後は腰痛・肩こりに効くストレッチ体操までやって、みなさんで楽しい時間を過ごしました(参加された方で、この様子をレポートしてくだされば幸い。原稿は事務局まで)。

第4回の主宰は、河野文昭さん。リレー・エッセイの第1回で語っていた「バッハの無伴奏チェロ組曲」をめぐってのディスカッションやワンポイントアドバイスなどを中心にと考えているとのことです。

参加ご希望の方は、前もって事務局までお知らせください。チェロ協会会員以外の方も歓迎です。会場の広さ



の関係で、25名前後で締め切らせていただく場合もあるかも知れません。

### 第4回チェロサロン

日時：1999年5月16日(日) 14:00～17:00

場所：カザルスホールリハーサル室(お茶の水スクエアC館B3F)



## チェロの音色感について

第1回の河野文昭さんに引き続き、リレーエッセイという事なので、私もB A C H（もちろんCello Solo Sonata）の演奏について、と思いましたが、考えている事がだいたい同感なので、今回は私なりのチェロの音色感について書いてみようと思います。

私が初めてチェロの音に触れたのは、パブロ・カザルスの小品集だったと思います（中学1，2年の頃）。その後、生演奏ではピエール・フルニエ、続いて来日したアンドレ・ヤニグロでした。カザルスはLPでしか聞けませんでしたが、同じ楽器でどうしてこれだけ音色が違うのだろうと思い、いろいろと試行錯誤してまね事をした記憶があります。

高校1，2年の時にロストロポーヴィチの演奏を聞き、大変ショックを受けました。今まで聞いたチェリストのだれよりも音が大きく、ダイナミックな演奏で、しかも（チェリストはよく気になるのですが）エンドピンがスタンド（曲がっている）でびっくりしました。それで、高校2，3年とスタンドのエンドピンをつけて、音がよく出る（奏くのが楽になる）とか、音色がよくなるのでは・・・と練習しました。今は随分オーソドックスで短くなりました。

大学に入ったくらい、少しなりとも自分の出せる音色に方向が見えて来はじめた時くらいから、特にカザルス、フォイヤマン、チェリストではないですが、ヴァイオリンのハイフェッツ、ミルシュティンなどに夢中になりました。現代の演奏者（自分も含めて）と何かが違うと、今でもそう

思うのです。音（音色）を造りあげるという想像力（イメージ）、音楽も含めての自然界の知識すべてがミックスされ、自分なりの哲学を吹き込み、音の深み、透明感、現実的でない想像の世界の音のような気がします。

現代社会は物があふれ過ぎ、何不自由はないのですが、それが想像力などを壊しているのかも知れません。この10年くらい前から、Bach Solo Sonata（モダンチェロで演奏する）を、バロックボウで使用したり、チューニングピッチを415に下げてみて吏、ガット弦を使用してみたりという試みも、一つの現象かも。

最近私は東京又は大都市でバッハを演奏するとき、どういう音色をイメージしようとか、想像力をじぶんなりにふくらませながら音づくりをしています。でも、夏の音楽祭などで山に行き、自然に触れ、きれいな空気を吸って森林に囲まれた中でバッハを演奏すると、自然と頭がスッキリして、こういう音で奏きたいと見えてくるような気がします。音とは自然と非常に密接な関係にあるのだと思います。カザルス、フォイヤマン、ミルシュティン、ハイフェッツたちは自然と共存し、自然から学んでいたのではないでしょうか。

# ミクローシュ・ペレーニ マスタークラス

紙上再現

去る1998年10月28日に行われた、ミクローシュ・ペレーニさんのマスタークラスについては、前号(第5号)に取り上げていますが、「実際どんなものだったのかしら」という声にお答えすべく、その一こまを紙上再現でお届けします。これは「カザルスホール・フレンズ」(ホール会員の会報誌)98年12月号に掲載されたものを編集部のご厚意により転載したものです。

## ミクローシュ・ペレーニ マスタークラス

受講生：遠藤理香 シューマン《アダージョとアレグロ》よりアダージョ

以下のマスタークラス再現をお読みになると、ペレーニというチェリストは、自分の意見を生徒に押しつけるばかりのように感じられるかもしれない。確かにペレーニ氏は、人に教えるのが好きだ。音楽ばかりではなく、ハンガリーの歴史や文化、ホールの壁の色を眺めては色彩が人間の感覚に与える精神的影响についても。それがなんであれ、咬んで含むような口調でゆっくりと静かに語られると、不思議と氏のベースに填ってしまう。もしかしたら、それが名教師の秘密なのかもしれない。

(生徒、全曲を弾く)

ペ：まずフレージングについて。音と音とが纏めてスラーで囁ってあるのは、とても大事です。作曲家は意図して書いているのですから、尊重して欲しいですね。それが途切れてしまっているようなところがありました。

それから、この曲は元々はホルンのための曲をチェロに書き直したものですが。アダージョの方ではそうでのないのですが、アレグロの方ではかなり原曲と音が違ったりしているようです。オリジナルの譜面は出ていますから、研究してみると良いと思います。

もうひとつ、音を強調する点について。アクセントではないですが、ある音を強調するときには、いつも弓をとぎらせ根元から弾くのだけが、強調の仕方ではありません。音を繋げながら強調

することも出来ます。それを知りたいと思います。

じゃあ例を。最初の部分。(ペレーニ、最初の2小節を弾く)弓を返してGを弾かれましたけど、可能ならばひとつの弓でGまで持つて下さい。もし無理だったら、別のやり方を考えなければなりませんけど。(ペレーニ、4小節目冒頭まで弾く)これがひとつ弓で弾くやり方なのですが、難しすぎるなら(ペレーニ、同じ所を弾く)これが別のやり方。ホルンのような広がる響き。音が全体から漂うような膨らみが欲しい。(ペレーニ、3小節目を弾く)4の指を使うときは他の指を離して。そうすればもっと自由な感じで弾けます。もっと音を飛び出させるよ

うに。

(生徒、冒頭から3小節弾く)

そこにはほんの少しグリッサンドが欲しいですね。(ペレーニ、3小節目の6度上昇を弾く)ここからここまで音があるという、距離感を出すためにです。グリッサンドは早くから始めないように。(ペレーニ弾いてみせる)

本当に柔らかく。

(生徒、弾く)

おやおや、あなたたちはどうやって合図をし合っているの(会場笑)。弓ですか、それとも頭ですか。体を動かしたりせず、チェリストの弓を見て、ピアニストが静かに始めるように出来ると良いのですが。

(生徒、冒頭から4小節弾く)

とっても良くなった。先を弾いて下さい。

(生徒、4小節から5小節まで弾く)



このEsを伸ばしているときに、ピアノは少し動きが大きくなる。その音楽的呼吸を、クレッセンドとまではいかないまでも、一緒に感じさせて下さい。

(生徒、4小節から6小節目冒頭まで弾く)ちょっと早く止めすぎます。(ペレーニ弾いてみせる)EsとCの音を殆ど隙間がないよう準備をして。最後のピアノが弾き終わるまでずっと弾いておいて、それから入る。

(生徒、4小節から6小節冒頭まで)少し早くなっています。同じテンポを維持して。

(生徒、4小節目から11小節目まで弾く)このEsの音をもう少し暖かく。最後は遠くに消えていくように。(ペレーニ、弾く)最初のEsに向けて、こう。

(生徒、4小節目から8小節目まで弾く)そこですけど(ペレーニ、6小節目から8小節目のチェロの部分をゆっくり弾く)最初の指使い、これを使ってみて下さい。(ペレーニ、同じ部分をもう一度弾いてみせる)ね。高い音の部分は、基本になる親指を必ずどこかに置いておくと探しやすいです。ゆっくりした楽章でそう。親指は速いパセージを弾くとき

に使うだけなく、こうしたゆっくりした曲でも使ってみて下さい。先を行きましょう。

(生徒、6小節目から11小節目まで弾く)そこはヴィブラートを少なくしても表情豊かに弾くことが出来ます。(ペレーニ、9小節目から12小節目まで弾く)最初の部分はヴィブラートを使いましたね、だけど後半では、違う音色を出すためにヴィブラートを控えめにしてみてください。それからピアノですけど、ここはピアノとチェロの対話なのでよ。それもただ繰り返すだけじゃなくて、だんだん何かが発展していくように。チェロが弾いた雰囲気をピアノが受け、味を付けていく。

(生徒、また9小節から12小節を弾く)ピアニッシモですけど、密度の濃い音にして下さい。(ペレーニも13小節目から弾く)その先をどうぞ。(ペレーニと生徒、17小節から20小節まで一緒に弾く)だんだん薄くなっていく。(21小節目、5度降下のところで)グリッサンドが多くなります。(2人一緒に弾く)確かにグリッサンドはありますね、こう弾くだけで。でも、それで十分です。ホルン

で吹くとしても、これくらいでしょう。

(生徒、21小節目から30小節目Bのところまで弾くと、ペレーニも31小節目の休符の後から入ってくる)もっと力を。(ペレーニ、21小節目と23小節目を弾き)1回目と2回目の違いが判りますか。グリッサンドで違った雰囲気になる。今の4度の跳躍の方ではグリッサンドはいりません。

(生徒、21小節目から27小節目を弾く)今の弾き方よりも(ペレーニ、26小節目を弾き)こっちの方が良いです。沢山の音を大きな纏まりで弾くのは最初は大変です。でも、練習で克服で

きます。小節と小節の間の線があっても、それを越えてフレージングが続いているものがある。勇気を出して、自分は出来ないと臆病にならずに、是非やってみてください。じゃ、次へ行きましょう。(生徒、28小節目から30小節目までチェロだけで弾き、ピアノがBの所から入ろうとする)ピアノ、待ちすぎないで下さい。(ペレーニ、31小節目から32小節目まで弾く、32小節目アウフタクトの10度上昇を繰り返し弾いてみせる)待ちすぎず。ここで待つと音楽が止まってしまいます。それから、2つの似たような音の間ではグリッサンドは必要ありません。オクターブでもグリッサンドは不要です。

(28小節目からペレーニと生徒、37小節まで一緒に弾く)ここでピアノは急がないでね。チェロをお手伝いしよう、なんて考えなくて結構ですから。(ペレーニ、35小節のピアノ8分音符の上昇を口ずさんで、同じ部分のチェロを弾きながら)緊張感はずっと維持して下さい。(ペレーニ、35小節から44小節まで弾く)ピアノのあと、待たないで直ぐに入って下さい。

(28小節からペレーニが弾き、生徒が入る。32小節目アウフタクトで止まり)ダー・ダダ、良いですか。(30小節Bから一緒に弾き)そこは急がない。(一緒に37小節まで弾く)もっとアンダンテに。(36小節から一緒に弾き40小節まで)良いですねえ。グリッサンドをちょっとかけて。(ペレーニ、40小節から47小節まで弾き)ここはずっと続けて。弓を変えても繋げて。(ペレーニ、45小節からCまで弾き)ここはグリッサンド。(ペレーニ、Cの直前を弾き)ここです。(生徒、Cから最後まで弾く)そうです。



## ●情報コーナー●

### 【本】

#### ★チェロレパートリー～ポピュラー&クラシック名曲集

監修：磯部朱美子

発行所：ヤマハミュージックメディア

価格：2500円（税別）

収録曲目：スマイル／「モダンタイムズ」より、いつか王様が／「白雪姫」より、サムディ／「ノートルダムの鐘」より、美女と野獣／「美女と野獣」より、ララルー／「わんわん物語」より、星に願いを／「ピノキオ」より、青春の輝き／カーペンターズ、My Heart Will Go On（タイタニック・愛のテーマ）／「タイタニック」より、Nearer My God to Thee／「タイタニック」より、野ばらに／「森のスケッチより」／マクダウェル、亜麻色の髪の乙女／ドビュッシー、別れの曲／ショパン、タンゴ／アルベニス、Du bist die Ruh「君こそ我が想い」／シューベルト、亡き王女のためのパヴァーヌ／ラヴェル、スペインのセレナード／ビゼー、鳥の歌／カタロニア民謡、白鳥／組曲「動物の謝肉祭」より／サン=サーンス、愛のあいさつ／エルガー、リベルタンゴ／ピアソラ、フレリュード／無伴奏チェロ組曲第1番より／J. S. バッハ、24のカプリスより第24番／パガニニ

□ヤマハから新しいチェロの曲集が発売されました。従来のクラシックの名曲はもとより今話題のピアソラ、ディズニー やタイタニックなどの映画音楽、その他ポピュラーも多数収録されています（全22曲）。アマチュアの方にも楽しめ、またもちろんプロのアンコールピースとしても幅広く活用していただけると思います。

### 【コンサート】

#### ★「The Duo、河野文昭&ヨゼフ・ハーラ、心に響く音の対話」

日 時●1999年4月11日（木）19:00 開演

場 所●紀尾井ホール

入場料●3000円

問合せ●スピカ 03-3978-6548

演奏曲●ベートーヴェン：ソナタ第4番ハ長調、ブラームス：ソナタ第1番ホ短調、R. シュトラウス：ソナタヘ長調

□チェコを代表する世界的なピアニスト、ハーラ氏とのデュオも3回目を迎えます。室内楽ピアニストとしての長い経験からくる、音楽に対する深い洞察力、その暖かい人間性から生み出される包容力のある音楽を魅力とするハーラ氏。今回はチェロのレパートリーとして全くオーソドックスなドイツ、オーストリアのプログラムを組みました。また新日鉄文化財団の協賛をいただき、紀尾井シンフォニエッタのメンバーとしホームグラウンドにしている紀尾井ホールで行うことになりました。皆様のご来聴をお待ちしています。

#### ★倉田澄子&田崎悦子 デュオリサイタル

日 時●1999年4月16日（金）19:00

場 所●紀尾井ホール

入場料●全席自由席 4000円

演奏曲●コダーイ／ソナタ作品4、ブラームス／ソナタ第2番作品99、ショパン／ソナタ作品65

◇チケット発売：神原音楽事務所チケットセンター 03-3586-8771、チケットセゾン 03-3250-9990、チケットぴあ 03-5237-9990、CNプレイガイド 03-5802-9990、紀尾井ホールチケットセンター 03-3237-0061

#### ★APA チェロの会

年1回 APA会員でチェロを弾く有志が集まり、思い思いに好きな曲を持ち寄って弾き、かつ聴く会です。

日 時●1999年4月17日（土）13:00 開演、16:30 終演予定

場 所●さわやか千葉県民プラザ大ホール（柏市）

問合せ●柴田いずみ 0471-31-9783

臼田 正子 0471-43-9752

#### ★桐朋学園チェロアンサンブル

日 時●1999年5月25日（火）19:00

場 所●府中の森芸術劇場 ウィーンホール

入場料●全席自由1000円

問合せ●桐朋学園大学演奏企画室 03-3370-4101、チケットぴあ 03-5237-9990

演奏曲●クレンゲル／4つの小品より、カザルス／東方の三賢人、ヴィラ＝ロボス／ブラジル風バッハ 第1番、ポッパー／レクイエム、グリーグ／ホルベルク組曲より、T.ミフネ／アルゼンチンタンゴ、J. S. バッハ／シャコンヌ

### 【ワークショップ】

#### ★21世紀へのバッハを求めて～鈴木秀美、バッハ・チェロ組曲ワークショップ

日 程●

第1回 1999年4月7日(水) 午後2時より8時 組曲第1番

第2回 5月25日(火) 午後2時より8時 組曲第2番

第3回 9月20日(月) 午後2時より8時 組曲第3番

第4回 10月16日(土) 午後2時より8時 組曲第4番

第5回 12月5日(日) 午後2時より8時 組曲第5番

第6回 2月13日(月) 午後2時より8時 組曲第6番

会 場●東京オペラシティ近江楽堂(おうみがくどう)

受講対象者●音楽学校の学生、卒業者またはそれ同等の技量をもつと思われる方

受講料●6回連続 50,000円、前後期3回連続25,000円、各1回10,000円

聴講料●1日3,000円

申込●バッハ・コレギウム・ジャパン

問合せ Tel 03-3226-5333 Fax 03-5362-5445

## ● 情報コーナー ●

### 【コンクール】

#### ★1999年 第9回日本室内楽コンクール

日 時●第1次予選 1999年5月30日(日)  
第2次予選 1999年6月5日(土)  
本選 1999年6月6日(日)  
実施部門●ヴァイオリンとピアノ、ヴィオラとピアノ、チェロとピアノ  
会 場●バリオホール  
主 催●財団法人 日本音楽教育文化振興会  
審査委員●委員長 菅沼準二  
委 員 久合田緑、小林健次、小森谷泉、沢和樹、店主眞積、田村宏、坪田昭三、野田暉行、堀了介、松波恵子  
受付期間●1999年4月1日~4月30日  
問 合せ●113-0033 東京都文京区本郷1-28-4  
申 込 アビラック・ミュージック・コミュニティセンター内  
財団法人 日本音楽教育文化振興会 日本室内楽コンクール運営委員会

※ チェロ協会事務局にも、コンクールの要項があります。

#### ★第3回 インターンナショナル チェロ フェスティバル&コンペティション (クリストチャーチ ニュージーランド)

日 時●1次予選 1999年7月20日-21日  
Great Hall, Art Centre  
2次予選 1999年7月22日-23日  
Great Hall, Art Centre  
本 選 1999年7月24日  
with Christchurch Symphony Orchestra  
Town Hall Auditorium  
審査委員長●Mstislav Rostropovich(Russia)  
審査委員●Frans Helmerson (Sweden/Germany), Philippe Muller (France), Natalia Pavlutskaya (Russia), Nathan waks (Australia), Alexander Ivashkin (Russia)  
申期限●1999年4月30日  
年齢制限●1999年7月25日に30才以下  
賞 金●第1位 NZ\$8,000 第2位 NZ\$4,000 第3位 NZ\$2,000 他にニュージーランド交響楽団との共演、ナクソスレーベルでの録音

※ チェロ協会事務局にコンクールの応募要項が送られてきています。必要な方は、お問い合わせください。ファックスでも可。

#### ★第1回アンドレ・ナバラ国際チェロコンクール

日 程●1999年10月28日~11月5日  
開催地●フランス・トゥールーズ  
資格制限●国籍不問、1969年10月28日から1983年10月28日の間に生まれた者に限る。  
申込期限●1999年6月28日必着  
審査委員長●Gilbert Army (作曲家)  
審査委員●Marcio Carnelio, Lluis Claret, Laurence Lesser, Ivan Monighetti, Philippe Muller, Arto Noras, Walter Nothas, Roland Pidoux  
問合せ先●事務局 Secretariat / tel. 33-1-45-79-16-55/Fax 33-1-45-79-16-55

※課題曲の詳細などは応募要項が事務局にありますので、お問い合わせください。インターネットをご利用の方は、以下のホームページをご覧ください。 <http://www.mairie-toulouse.fr>

#### ★第2回アントニオ・ヤニグロ国際チェロコンクール

日 程●2000年2月17日~29日  
開催地●クロアチア・ザグレブ  
資格制限●1969年12月31日以降に生まれた者  
申込期限●1999年12月1日必着  
審査委員長●David Geringas  
審査委員●Mario Brunello, Ivo Malec, Phillippe Muller, Siegfried Palm, Natalia Shakovskaya, 堤剛  
問合せ先●Zagreb Concert Management  
Kneza Mislava 18, 10000 Zagreb, Croatia  
Tel. 385-1-46-11-808 Fax. 385-1-46-11-807  
email:kdz@zg.tel.hr

※応募要項が事務局にありますので、詳細はお問い合わせください。



## 事務局から

### ヤーノシュ・シュタルケル マスタークラス（予告）

99年度 J C S 事業のひとつとして、ヤーノシュ・シュタルケル氏によるマスタークラスを予定しております。日程は10月5日（火）、場所はカザルスホールの予定です。受講者募集の詳細、入場整理券の配布などについては、詳細が決まり次第お知らせいたします。

### 事業提案・情報募集

マスタークラス、各地でのチェロサロンなど、J C S では会員発案による事業に積極的に取り組んでいきたいと考えています。年度が改まったところで、評議委員会を開く予定ですので、ご提案をお待ちしています。簡単で結構ですので、事業内容、実施時期などを纏めたものを事務局宛お送りください。

J C S NEWSの紙面は会員のみなさんの情報交差点。コンサート、セミナー、本、ビデオ、CDなど、チェロに関わるどのような情報でも結構ですので、事務局宛にお寄せください。恒常的パンク状態の事務局ゆえ、取材に打ってでることもできず、ひたすらにみなさんからの情報をお待ちしてお

ります。

### J C S NEWS原稿募集

目下評議委員のリレーエッセイが進行中ですが、会員のみなさんによるチェロに関わるあらゆるエッセイ、小論文、レポートをぜひ J C S NEWS にお寄せください。日頃から疑問に思っていること、今更聞けないあんなこと、こんなこと、個人消息でも結構です。紙面の活性化にご協力ください。

### 事務局からのお尋ね～あなたはどなた？

12月3日付で住友銀行に更新会費（正会員）を「ノリタケミズホ」様のお名前でお振り込みくださった方、恐縮ですが至急事務局までご連絡ください。会員原簿に該当するお名前が無く、領収書などをお送りできません。

### 会費納入のお願い

前号でのお願いに、早速たくさんの方々から新年度の会費を頂戴いたしました。本当にありがとうございます。

ます。事務局パンクのため、さまざまな事務処理が止まっており、心苦しい限りです。すみません。

前号に引き続き、更新期を迎えた会員の方々は、99年度分の会費をお納めくださいれば幸いです。入会月の翌月末が年度会費の有効期限です（会員証をご覧ください）。

会費の納入は、以下の日本チェロ協会講座にお振り込みくださるか、現金書留で事務局宛お送りください。お近くにおいての折り、直接現金払いでも結構です。

富士銀行 お茶の水支店 普通預金 1631727  
住友銀行 御茶の水支店 普通預金 848324  
いずれも口座名義は日本チェロ協会（ニホンチェロキョウカイ）です。

お願い：お振り込みの際、会員番号を送金者名の前に付けてくださいと大変助かります。また、お振り込みの際のお名前は会員として登録された方のお名前でお願いいたします。

### 編集後記

とうとうやってしまいました・・・すみません、今回は発行が約2週間遅れてしまいました。忙しいのが言い訳の定番になってしまっていますが、事情ご賢察ください。

つい先日、ルイス・クラレットさんのマスタークラスがありました。カザルスホールでは他の楽器やアンサンブルのMCを随分やってきましたが、J C Sとの共催になってからのチェロのマスタークラスは、熱気と真剣度が高いように思えます。指使いの手元をのぞき込むように中腰になる方々（ひとりではなくて、何人かが一斉に）、見やすいように、3時間後ろに立ちっぱなしの方々・・・。クラレットさんもマスタークラスの盛況ぶりには驚いていました。

今年はシュタルケルさんのマスタークラスがあります。少しでも多くの方々に見ていただけるように、会場はカザルスホールのつもりです。（み）

### <発行スケジュール>

#### 原稿・情報〆切 発送作業 掲載情報

1999年6月号 99年4月23日(金) 5月29日(土) 99年6月5日(土) 以降  
1999年9月号 99年7月30日(金) 8月28日(土) 99年9月4日(土) 以降  
1999年12月号 99年10月29日(金) 11月27日(土) 99年12月4日(土) 以降  
2000年3月号 00年1月28日(金) 2月26日(土) 00年3月4日(土) 以降

#### 日本チェロ協会会報 J C S NEWS 第6号

[発行日] 1999年3月15日

[発行所] 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台

1-6 お茶の水スクエアA館

カザルスホール企画室・アウフトクト内

日本チェロ協会

Tel03-3295-7586 Fax03-3293-5257

Mail QGA01776@nifty.ne.jp

[発行人] 堤剛

[編集] 日本チェロ協会事務局

[編集協力] リュウカンパニー